

ペット保険

医療に特化、手頃なプラン設定

犬や猫が病気やけがで動物病院にかかった際、診療費の一部を補償する「ペット保険」の加入が広がっている。ペットは自由診療が原則で飼い主の負担が高額になる場合もあるからだ。

現在、ペット保険を扱っているのは、手頃な保険料で利用できる



るミニ保険を販売する少額短期保険会社や、損害保険大手など15社。このうち9月に参入した後発組のSBIいきいき少額短期保険は、犬と猫の医療保険に特化した手頃なプランが特徴だという。高崎誠治社長「写真」は「保険料を業界最安水準に設定し、財布に優しい」と話す。

例えばチワワといった小型犬の保険料は、入院・治療費の7割を補償するプランで0〜2歳なら月額2100円。犬猫とも新規契約時の年齢には上限（8歳未満）があり、契約後に継続すれば終身まで対象となる。保険料は年齢が上がる越高くなるが、12歳以降は一定で変わらないのも特色。インターネット加入で10%引きとなる。

犬猫の飼育数は約2千万匹とされ、いまや子供の数より多いともいわれるほど。高崎社長は「飼い主がペットのための保険に入る割合は、海外だとスウェーデン50%、英国25%。日本はまだ6%程度で、伸びる余地は十分。これまで入りそびれていた人などをターゲットに、より多くの人に加入していただきたい」と意気込んでいる。